

# 平成25年度第9回政策会議

日時 平成26年3月26日(水) 13:30~14:00

会場 市長会議室

参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 山本教育長 秋田企業局長  
谷口企画部長 川越総務部長 山田財務部長 川村財務部次長

## 議題 函館アリーナの利用料金設定について

◎対応 政田生涯学習部長 布谷観光コンベンション部長 対馬生涯学習部次長  
平井生涯学習部次長 渡辺管理課長 西田スポーツ振興課長  
池田生涯学習部参事 佐藤管理課経理係長 荒木スポーツ振興課主査

### ◆ 議題の趣旨 ◆

函館アリーナの利用料金の設定について協議しました。

### ◆ 協議の結果 ◆

料金の設定について、今回の会議では決定とせず、他都市の状況などを勘案しながら、再度内部で検討を進めることとしました。

### ◆ おもな発言 ◆

#### ■ 政田生涯学習部長

アリーナの利用料金の設定について、まず、基本条件として、用途目的、利用区分は現市民体育館と同様にし、土・日祝日料金についても同様に2割増としたい。

冷暖房料金については、フルシーズンエアコンが稼働しているので、利用料金に含むこととしたい。

料金の設定にあたっては、参考として他都市の類似12施設の料金を調べ、平均値を算出した。専用利用の全日利用の料金は、入場料無料のアマチュアスポーツ利用で63,000円など全6区分、個人利用の1区分あたりの料金は一般で390円となっている。

また、函館アリーナにおいて発生するランニングコストの5割を利用料金収入で賄うための料金設定について試算したところ、専用利用のアマチュアスポーツ利用で15万円、個人利用の一般が900円となるなど、現実的とはいえない料金となった。

これらを踏まえ教育委員会で設定した料金案については、まず、道内の新しい施設で函館アリーナと同規模の料金設定を参考にするとともに、メインアリーナの個人利用の料金については、道内の人口10万人以上の体育館の利用料金の平均額を踏まえ、300円としたい。現在の市民体育館の料金は120円なので、倍以上の料金となるが、道内他都市施設の平均をやや上回る程度の設定であり、施設が新しくなり、さらには広くなることを踏まえると理解をいただける範疇だと考えている。また、トレーニングルームの料金については、指導者の配置や保健所の健康増進センターとの整合を考慮し、同額の400円とした。同規模施設の平均値と比べると若干安いですが、地域スポーツの拠点施設と

して多くの市民に利用していただく施設とする必要があることから、この金額に設定した。

■工藤市長

料金設定の専用利用料のところ、土・日・祝日の2割増について、類似都市も同様に設定してるのか。

□池田生涯学習部参事

類似事例について調査したが、そのように設定している場合が多い状況。

■工藤市長

コンベンションなどで来る人は平日が多いと思う。逆に土日は子どもたちのスポーツ大会など市民の利用が多いのではないかと。現行も土日・祝日は割増料金としてるのか。

■政田生涯学習部長

現行も土日は同じような料金体系でやっている。

■工藤市長

アリーナは現行の体育館とは違う。単なる体育施設としての利用だけではないし、掛かっている経費や設備も異なっているから、現行のものとは一緒にはならないと思っている。

□池田生涯学習部参事

利用料金収入の積算について、個人利用の実績を見ていくと、年間6万5千人の利用がある。内訳は、一般が4万人、高校生が1万2千人、65歳以上の高齢者が1万2千人などとなっている。積算上は、新規開設の効果や、利用料金制による民間の経営努力も発揮されることなどを勘案して、料金設定は上がるけれども、2割増の7万8千人の利用を見込んだという点も踏まえ、原案についてはご理解いただきたい。

■工藤市長

函館アリーナとして生まれ変わり、観光振興や経済効果としての側面も期待しているし、行財政改革に取り組んでいる中、それぞれの施設に見合った負担をしてもらうというのが基本だと考えている。

■山田財務部長

全道で一番新しい施設であり、これだけの設備も機能もあることを踏まえると、ある程度の料金設定は必要だと思う。それと、今後使用料をトータルで見直しする際に、各施設ごとに概ねランニングコストの25%程度を利用料金で賄うことを一つの目安にしていきたいと考えている。

■川村財務部次長

個人利用料金は、類似施設の平均を勘案しても、もう少し上げることができるのではないかと。専用利用については、営利・興業目的で使用する場合は、料金が低い、

安いという観点ではなく、どれだけ集客力があるのかという観点で選択するので、この区分の料金は多少高くてもそれほど影響はないのではないか。コンベンションなどが該当する入場料無料の非営利目的の区分、ここがメインターゲットというポイントとなるので、この設定が妥当なのかどうかというところだと思う。

■布谷観光コンベンション部長

観光サイドでいえば、コンベンション開催の補助金を利用する団体も結構いるし、そういう意味でも施設の利用料金は影響が大きいので、利用者を増やすためには、料金は一つの大きな要素であると思っている。

■工藤市長

入場料無料でのアマチュアスポーツや非営利での利用などは、あまり高くしたくない。ただ営利目的のものは、多少高くてもよいのではないか。

■山田財務部長

アマチュアスポーツなどの部分については、一定の配慮は必要だと思う。

■谷口企画部長

いろいろ議論はあったが、本件については、再度検討の余地が有るということで結論は持ち越して、再検討するというところでいかがか。

■政田生涯学習部長

大方の意見では、個人利用の料金については、類似施設の平均を一つの基準とすること、また、専用利用の料金については、営利目的の区分の料金設定を見直すべきとのことだったので、別途個別に協議させていただきたい。

■工藤市長

再度、教育委員会と財務部で料金設定について検討を進めてほしい。